

平成30年4月1日現在

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表]

機関名	広島大学	整理番号	S03
1. 全体責任者 (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるものは基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) (おち みつお) 氏名・職名 越智 光夫 (広島大学長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) (みやたに まこと) 氏名・職名 宮谷 真人 (広島大学理事・副学長(教育・東千田担当))		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) (ふじわら あきまさ) 氏名・職名 藤原 章正 (広島大学国際協力研究科・教授)		
4. 類型	S <複合領域型(多文化共生社会)>		
5.	プログラム名称	たおやかで平和な共生社会創生プログラム	
	英語名称	Taoyaka Program for creating a flexible, enduring, peaceful society	
	副題	オンサイト・リバーズイノベーションを推進するリーダー	
6. 授与する博士 学位分野・名称	博士(文学)、博士(学術)、博士(国際協力学)、博士(工学)、博士(理学)、博士(農学)、 博士(教育学) 付記する名称:たおやかで平和な共生社会創生プログラム		
7. 主要分科	(① 地域研究) (② 土木工学) (③ 電気電子工学) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記		
	(①) (②) (③) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記。		
8. 主要細目			
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	文学研究科・人文学専攻、 総合科学研究科・総合科学専攻、 国際協力研究科・開発科学専攻、教育文化専攻、 先端物質科学研究科・半導体集積科学専攻、量子物質科学専攻、分子生命機能科学専攻 工学研究科・システムサイバネティクス専攻、社会基盤環境工学専攻、機械物理工学専攻 教育学研究科・教育学習科学専攻、生物圏科学研究科・環境循環系制御学専攻		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)			

14. プログラム担当者の構成 計 65 名					
外国人の人数		14 人	[21.5%]	女性の人数	
				6 人	[9.2%]
プログラム実施大学に属する者の割合 [69.2%]					
プログラム実施大学に属する者			45 人	プログラム実施大学以外に属する者	
そのうち、他大学等を経験したことのある者			42 人	そのうち、大学等以外に属する者	
				12 人	
15. プログラム担当者					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 /学位	役割分担 (平成30年度における役割)
(プログラム責任者)					
宮谷 真人	ミヤタニ マコト		理事・副学長(教育・東千田担当)	認知心理学 /博士(心理学)	プログラム責任者 プログラムの総括
(プログラムコーディネーター)					
藤原 章正	フジワラ アキマサ		国際協力研究科・開発科学専攻・教授	交通工学 /博士(工学)	プログラムコーディネーター 3コースの総括 社会実装コース
友澤 和夫	トモザワ カズオ		文学研究科・人文学専攻・教授 併 現代インド 研究センター長	人文地理学 /博士(文学)	文化創生コース主任 文化創生コース
岡橋 秀典	オカハシ ヒデノリ		奈良大学・文学部・教授	人文地理学 /博士(地理学)	文化創生コース
河西 英通	カニシ ヒデミチ		文学研究科・人文学専攻・教授	日本史 /博士(文学)	文化創生コース
Maharjan, Keshav Lall	マハラジャン ケシャブ ラール		国際協力研究科・教育文化専攻・教授	南アジア地域研究 /農学博士	文化創生コース
関 恒樹	セキ コウキ		国際協力研究科・教育文化専攻・教授	文化人類学 /博士(文学)	文化創生コース
外川 昌彦	トガワ マサヒコ		東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究 所・准教授	文化人類学 /Ph. D 博士(社会学)	文化創生コース
Funck, Carolin	フンク カロリン		総合科学研究科・総合科学専攻・教授	観光地理学 /Dr. rer. nat	文化創生コース
熊原 康博	クマハラ ヤスヒロ		教育学研究科・文化教育開発専攻・准教授	自然地理学 /博士(文学)	文化創生コース
太田 淳	オウタ アツシ		慶応義塾大学・経済学部・准教授	歴史学 /博士(文学)	文化創生コース
中村 平	ナカムラ タイラ		文学研究科・人文学専攻・准教授	人類学・日本学 /博士(文学)	文化創生コース
中矢 礼美	ナカヤ レイミ		国際協力研究科・教育文化専攻・准教授	比較国際教育学 /博士(教育学)	文化創生コース
後藤 拓也	ゴトウ タクヤ		文学研究科・人文学専攻・准教授	人文地理学 /博士(文学)	文化創生コース
中空 萌	ナカゾウ モエ		国際協力研究科・教育文化専攻・講師	文化人類学 /博士(学術)	文化創生コース
陳 林	チン リン		大学共同利用機関法人人間文化研究機構・研究 員 現代インド研究センター・特任助教	地理学 /博士(文学)	文化創生コース
金子 慎治	カネコ シンジ		国際協力研究科・開発科学専攻・教授	環境資源経済学 /博士(工学)	社会実装コース主任 社会実装コース
張 峻屹	チョウ シュンキツ		国際協力研究科・開発科学専攻・教授	都市・交通計画 /博士(工学)	社会実装コース
吉田 雄一郎	ヨシダ ユウイチロウ		国際協力研究科・開発科学専攻・教授	開発マクロ経済 /Ph. D Economics	社会実装コース
川野 徳幸	カワノ ノリユキ		平和科学研究センター・教授 併 国際協力研 究科・開発科学専攻・教授	平和学 /博士(医学)	社会実装コース
河合 研至	カワイ ケンシ		工学研究科・社会基盤環境工学専攻・教授	コンクリート工学 /工学博士	社会実装コース
大橋 晶良	オハシ アキヨシ		工学研究科・社会基盤環境工学専攻・教授	水環境工学 /博士(工学)	社会実装コース
市橋 勝	イチハシ マサル		国際協力研究科・開発科学専攻・教授	経済学 /博士(理学)	社会実装コース
後藤 大策	ゴトウ ダイサク		国際協力研究科・開発科学専攻・准教授	応用ミクロ経済学 /博士(経済学)	社会実装コース
川田 恵介	カワタ ケイスケ		東京大学社会科学研究所・准教授	経済学 /博士(経済学)	社会実装コース

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 /学位	役割分担 (平成30年度における役割)
塚井 誠人	ツカイ マコト		工学研究科・社会基盤工学専攻・准教授	地域計画・統計解析/博士(工学)	社会実装コース
柿中 真	カキナ マコト		国際協力研究科・開発科学専攻・教授	国際経済学/博士(経済学)	社会実装コース
李 漢洙	リー ハンスウ		国際協力研究科・開発科学専攻・准教授	海岸・海洋工学/博士(工学)	社会実装コース
力石 真	チカラシ マコト		国際協力研究科・開発科学専攻・准教授	都市工学/博士(工学)	社会実装コース
久保田 徹	クボタ テツ		国際協力研究科・開発科学専攻・准教授	建築都市環境工学/博士(工学)	社会実装コース
Tran Dang Xuan	チャン ダン スワン		国際協力研究科・開発科学専攻・准教授	農業生物学・植物科学/博士(農学)	社会実装コース
櫻井 里穂	サクライ リホ		教育開発国際協力研究センター・准教授 併 国際協力研究科・教育文化専攻・准教授	教育開発・国際比較教育学/博士(教育学) (教育理論政策)	社会実装コース
石井 抱	イシイ イタク		工学研究科・システムサイバネティクス専攻・教授	センシング工学/博士(工学)	技術創生コース主任 技術創生コース
三浦 道子	ミウラ ミチコ		H i S I M研究センター・特任教授	デバイス物理/理学博士	技術創生コース
東 清一郎	ヒガシ セイイチロウ		先端物質科学研究科・半導体集積科学専攻・教授	半導体工学/博士(工学)	技術創生コース
Mattausch, Hans Jurgen	マタウシュ ハンス ユルゲン		H i S I M研究センター・特任教授 併 H i S I M研究センター長	集積回路/理学博士	技術創生コース
横山 新	ヨコヤマ シン		ナノデバイス・バイオ融合科学研究所・教授 併 先端物質科学研究科・半導体集積科学専攻・教授	半導体工学/工学博士	技術創生コース
角屋 豊	カドヤ ユカ		先端物質科学研究科・量子物質科学専攻・教授	光エレクトロニクス/博士(工学)	技術創生コース
辻 敏夫	ツジ トシオ		工学研究科・システムサイバネティクス専攻・教授	生体工学/工学博士	技術創生コース
西崎 一郎	ニシザキ イチロウ		工学研究科・システムサイバネティクス専攻・教授	システム工学/博士(工学)	技術創生コース
餘利野 直人	ヨリノ ナオト		工学研究科・システムサイバネティクス専攻・教授	電力システム工学/工学博士	技術創生コース
高橋 勝彦	タカハシ カツヒコ		工学研究科・システムサイバネティクス専攻・教授	経営工学/工学博士	技術創生コース
山本 透	ヤマモト トオル		工学研究科・システムサイバネティクス専攻・教授	制御工学/博士(工学)	技術創生コース
高木 健	タカキ タケン		工学研究科・システムサイバネティクス専攻・准教授	ロボット工学/博士(工学)	技術創生コース
造賀 芳文	ゾウカ ヨシフミ		工学研究科・システムサイバネティクス専攻・准教授	電力システム工学/博士(工学)	技術創生コース
栗田 雄一	クリタ ユウイチ		工学研究科・システムサイバネティクス専攻・准教授	人間工学/博士(工学)	技術創生コース
松村 幸彦	マツムラ ユキヒコ		工学研究科・機械物理工学専攻・教授	エネルギー学/博士(工学)	技術創生コース
加藤 純一	カトウ ジュンイチ		先端物質科学研究科・分子生命機能科学専攻・教授	応用微生物学・生物工学/農学博士	技術創生コース
山本 民次	ヤマモト タミジ		生物圏科学研究科・環境循環系制御学専攻・教授	環境動態解析/博士(農学)	技術創生コース
相田 美砂子	アイタ ミサコ		理事・副学長(大学改革担当)	量子化学・生物物理/理学博士	学生キャリア支援
Eaton, David	イートン デービッド		テキサス大学オースティン校リンドンジョンソン公共政策大学院・教授	合意形成/Ph. D(環境工学・地理学)	リーダーシップ手法(共通科目)
Nurjahan, Begum	ヌルジャン ベグム		グラミンジャクティ・マネージングディレクター	マイクロファイナンス・社会開発/修士(経済学)	バングラデシュ拠点支援
Dhital, Ram Prasad	ディタル ラム プラサド		ネパール代替エネルギー促進庁・代表執行責任者	エネルギー経済政策学/Ph. D(エネルギー経済政策学)	ネパール拠点支援
Virji, Hassan	ヴィルジ ハッサン		University of Maryland-College Park・Adjunct Professor	気候変動リスク管理等の統合的研究/Ph. D(気象学)	教育モデル化・移転事業
Aquitania, Victorino	アキタニア ヴィクトリーノ		ICLEI・東南アジア地域事務所長	行政学/行政学修士	インド拠点設置支援

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

【概要】本プログラムは、これまで行われてきた画一的教育の反省から生まれた。学生の個性が尊重され、学生が自らの可能性を見出し、様々な形で社会へ貢献していく道筋を発見していく手段として、複合的な視点でのみ解が見つけられる多文化共生をターゲットとした。これにより、広島大学が強みをもつ人文・社会系の分野と科学技術分野を融合し、文化が牽引する「たおやかで平和な共生社会創生」に貢献できる人材を養成する。時間と空間の広がりによって多様に育まれた地域独自の社会と文化を深く理解し、それをふまえて地域が抱える課題の克服のために、必要な先端科学技術をその地で見出し(開発し)、育む(社会実装する)教育を実施する。このため、実際に文化を育ててきた地に寄り添ったフィールドワークを骨格とした提案支援型教育を実施する。輩出される学生は、多角的思考、自主性、具現化する実行力、無から生み出す創造力を兼ね備える。これらはあらゆる社会でリーダーに求められる素養と考える。

本プログラムは、「戦争」や「核」といったキーワードでこれまで築かれてきた広島大学の平和教育をさらに広い分野へと拡大・発展させ、平和を希求する大学の継続的取組の一環に位置づけられる。文化の自立・発信は単に共生に留まらず、異なる文化の相互作用によるシナジー効果を生み出し、また先端科学技術と地域文化とをシンクロさせることによって、従来とは異なる形の新たな産業創生にも結びつくと考え。

【特色】近年、いかに辺境の途上国の寒村深くに入り込もうとも携帯電話で通信する村人に出会い、小さな太陽電池パネルで発電されたわずかな電力でもあかりに変換できる LED 電球の普及によって、単調で危険な長い夜が豊かな文化を創生する有意義な時間に変わりつつある。先進国で開発された半導体を基盤とする先端科学技術が期せずして途上国の貧困社会をも劇的に変貌させる可能性を示している。こうした可能性をより困難な課題を抱える地域に寄り添い、そのニーズから発想してより効果的に社会を望ましい方向へ導くような課題解決型技術革新・社会創生のあり方が「オンサイト・リバーシノベーション」である。

本プログラムでは、多様化する文化・社会への科学技術の解は一つではなく、それぞれの地域に見合った様々な技術が必要であるという立場をとる。これは、これまで先端科学技術開発が国際的な統一規格を目指してきたのとは対照的なスタンスである。その地の文化を理解するだけでなく常に新たな進化を遂げるための文化創生を繰り返しながら、適切な先端科学技術を確実にオンサイト・ソリューションへと適用・実装できる人材グループを育てる。文化が先導する科学技術の発展に解決策を求め、これをグループとして具現化するために不可欠な3つのタイプのリーダーを育成する。具体的には、(1)社会・環境変化や技術革新に適応するよう文化を創生する人材、(2)条件不利地域の文化と社会環境のおかれた課題に適応するよう科学技術を創生する人材、(3)創生される多様な地域文化と新たな科学技術が均衡するよう社会に実装する人材、である。そのために、博士課程 D1-2 では国内外の複数の条件不利地域を訪問し、博士課程 D3-5 では長期に現地滞在し、地域に寄り添ったフィールドワークを中心とする学習機会を提供する。この際に、文理を横断する異なる専門の学生で構成したグループを編成し、6つのプロジェクト課題の解決に取り組む。こうした人材は、国際政治・行政・教育においてたおやかな平和共生社会の実現に直接貢献するだけでなく、産業界におけるリーダーとしても活躍しうると考える。

【優位性】本学では1994年に国際協力研究科を発足させ、国際協調を促進する学問領域を先導し、グローバルなフィールド型実践教育を通して開発途上国の自立を育むリーダー育成に多くの実績を上げてきた。本プログラムはこの研究グループを核として、国内・外の地域文化・社会の研究に顕著な業績を有するグループと、半導体、情報通信分野で世界をリードしている理工学系グループを中心として推進する。

フィールドとしては、これまでに実績のある条件不利地域を取り上げる。国内では中四国の過疎地域、国外ではインドを中心とする南アジアを想定している。インドを中心とする南アジアは文化的にきわめて多様である一方で貧困や差別に苦しんでいるが、この地域に対して、平和を志向する広島大学のプレゼンスは既にきわめて高い。本プログラムではこれらの地に拠点を置き、広島との強力な連携を立ち上げる。

広島大学は2011年に半導体コンソーシアムを立ち上げて、様々な産業界との強力な連携を実施している。これを通して本プログラムで必要となる科学技術面からの支援のみならず、産業界の立場からの教育を担っていた。学術研究支援グループの活動を通して、産業界と協力して日本発の国際標準化を数々実現してきている実績は本プログラムでも遺憾なく発揮される。また平和を発信する地としての自他ともにある認識は、学生達が現地に赴いて活動する際に、大きな心のよりどころになることは自明である。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

